

イタリアンライグラス跡地における飼料用トウモロコシの不耕起播種技術

播種深度を3cm以上にすることで、トウモロコシを不耕起播種しても、慣行の耕起栽培と同等の苗立率と収量を確保できる

研究開発の背景

- ・飼料価格の高止まりを背景に、省力的で低コストな不耕起栽培による自給飼料生産が注目されている。
- ・トウモロコシの不耕起栽培は、トウモロコシ二期作体系で普及している反面、二毛作体系におけるイタリアンライグラス等の牧草収穫跡地では、苗立率と収量が悪く、普及が進んでいないので、安定した苗立率と収量が得られる不耕起播種技術の開発が必要。

研究成果の内容

不耕起の播種工程



除草（前処理）



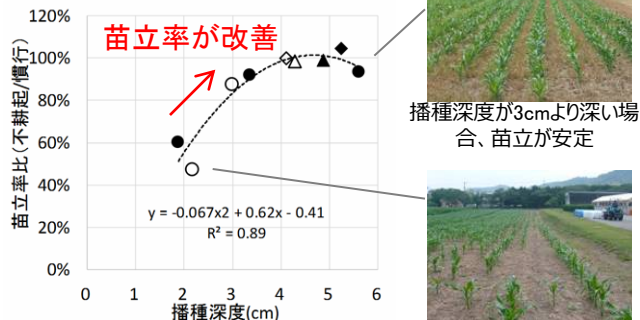
施肥・不耕起播種

不耕起播種することで、牧草収穫とトウモロコシの播種が連続する春の農繁期にトウモロコシの播種を2工程で完了できる。

慣行の耕起栽培と同程度の苗立率にまで改善するには、**播種深度を3cm以上にする。**

十分な播種深度を確保するための主な方法として、

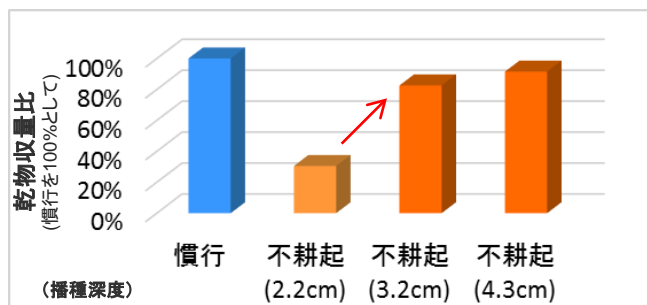
1. 不耕起播種機本体の深度調節を行う。
2. 降雨後などで、土壌が軟化している時に不耕起播種する。



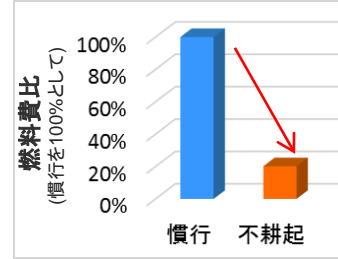
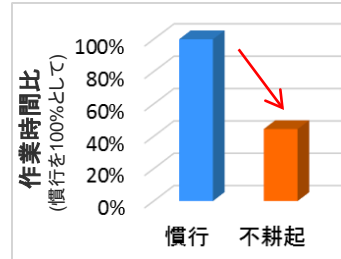
○:出穂期刈IR跡地, △:青刈IR跡地, ◇:前年作トウモロコシ跡地
黒塗り:散水処理あり, 白塗り:散水処理無し

導入メリット

不耕起栽培で播種深度を3cm以上にすることで、慣行と同程度の収量を確保



播種に要する作業時間は半減 播種に要する燃料費は1/5



期待される効果

- ・二毛作体系でのトウモロコシの不耕起栽培の苗立率・収量が安定。
- ・省力的で低コストなトウモロコシの不耕起栽培の普及に貢献。

導入をオススメする対象
二毛作体系可能な生産者、コントラクター組織